

第206回（令和4年5月29日施行）

1 級商業簿記・会計学

第1問

本問の問題文は、『企業会計原則』の「第一 一般原則」,「第三 貸借対照表原則」さらに『企業会計原則注解』の【注1】からの一部抜粋である。1. では一般原則のうち正規の簿記の原則についての理解を問うている。2. では貸借対照表完全性の原則を問うとともに、3. の重要性の原則との関わりについての理解を問うている。

第2問

1. 固定資産の減損

減損損失を認識すべきであると判定された資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上する仕訳を問うている。回収可能価額とは、資産の正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額をいう。

2. 固定資産の割賦購入

分割払いで購入した備品の第1回割賦金（未払金勘定）支払時の仕訳を問うている。購入から支払時までの利息（定額法による1ヵ月分）を利息未決算勘定から支払利息勘定へ振り替える処理も併せて行う。

3. 本店集中計算制度

支店相互間の商品売買取引について、その債権債務を本店の帳簿に記録する本店集中計算制度の仕訳を問うている。本店を通して取引が行われると仮定するため、本店は仕入先の東京支店に債務が生じ、売上先の名古屋支店に債権が生じるように処理する。

4. 保証債務の取崩

手形を割引いた際に保証債務を時価で評価して保証債務勘定（負債）に計上していたが、当該手形が満期日に無事決済された場合の仕訳を問うている。時価評価していた負債が消滅し、保証債務取崩益勘定（収益）を計上する。

5. 欠損をてん補による資本準備金の減少の処理

欠損をてん補するため資本準備金を充当する場合の仕訳を問うている。資本準備金をてん補して余った額については、資本準備金減少差益勘定（その他資本剰余金）で処理する。

6. 預り有価証券の記録

保証金の代用として有価証券を預かった場合の備忘仕訳を問うている。所有権が移転しているわけではないため、簿記上の取引には該当しないが、備忘記録として対照勘定で処理する。

第3問

外貨建輸入取引について、「仕入日」「決算日」「決済日」の仕訳を問うている。内金を支払済みの商品の取得原価は、支払済の内金の円貨額と外貨建残額の円換算額との合計額で決定する。決算日では外貨建金銭債権債務については、決算時の為替相場によって円換算する。決済日では当日の為替相場で換算した額で支払い、帳簿価額との差額は為替差損益として計上する。

第4問

連結精算表を完成させることで、支配獲得日の連結貸借対照表を作成する問題である。本問での連結手続は、親会社・子会社の貸借対照表を単純合算し、続いて連結消去手続（①子会社の資産・負債の時価評価、②投資と資本の相殺消去）を通じて連結貸借対照表の完成に至る。連結貸借対照表固有の科目として、「のれん」と「非支配株主持分」が記載される。

第5問

本問は、主として決算整理の処理及び財務諸表の作成能力を問うている。【問1】では、貸借対照表における負債及び純資産の部の作成を問うている。ただし「未払法人税等」と「繰越利益剰余金」の金額は、【問2】の損益計算書を完成して求める。【問2】では損益計算書の作成を問うている。売上原価の内訳科目として表示する「棚卸減耗費」と「商品評価損」の金額は「差引」の金額に加算しなければならない。